

英語で世界に発信する地域遺産教育の開発

～LOLを取り入れた“やまぐち地域遺産スタディーズ”の構築をめざして～

「やまぐち地域遺産スタディーズ」とは？

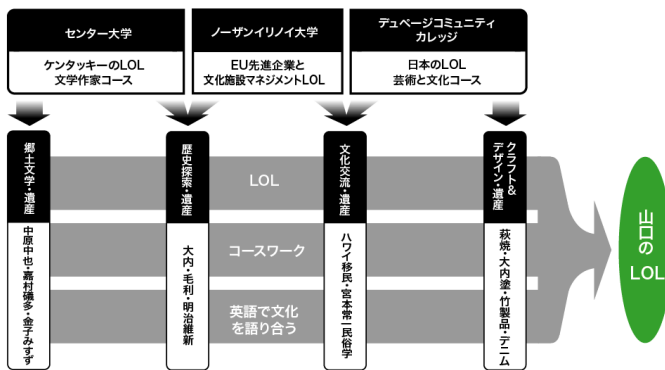
従来、主として「英語圏からの留学生」と「英語能力向上を目指す本学学生」を対象に英語で開講していた授業科目を4種類のカテゴリーに分け、特に中心となる地域遺産スタディーズを新たに設けて命名しました。

- それらは、①「郷土文学遺産」 ②「歴史探訪遺産」
③「文化交流遺産」 ④「クラフト&デザイン遺産」からなります。

LOL(Learn on Location)とは？

机に座ってテキストを読みとく従来の教育方法から脱し、学んだことを現場で確かめる機会を取り入れたり、現場を歩きながら学ぶ機会を取り入れたりしながら、教室／事前学習ー現地教育ー教室／事後学習を組み合わせ

せた15週、あるいは数日間から2～3週間にわたる集中的な科目の運営の仕方を言います。「現地学習・現地研修(Learn on Location)」「地域へのトリップ」「地域へのエクスカージョン」「地域でのフィールドワーク」「体験学習(experiential learning)」など、呼び方は様々です。欧米では文学や法学、哲学や宗教学などでもこの手法が取り入れられています。



外国人のための日本語

日本文化
華道 書道 茶道 陶芸など

やまぐち地域遺産スタディーズ

従来より英語で開講している
基礎教養科目・専門科目
国際関係論、異文化交流論
アジアの経済、日本文化論など

英語で開講される科目群の将来像

プログラム構築までの流れ

海外先進教育視察 2008年9月

試行 2008年11月～2009年1月

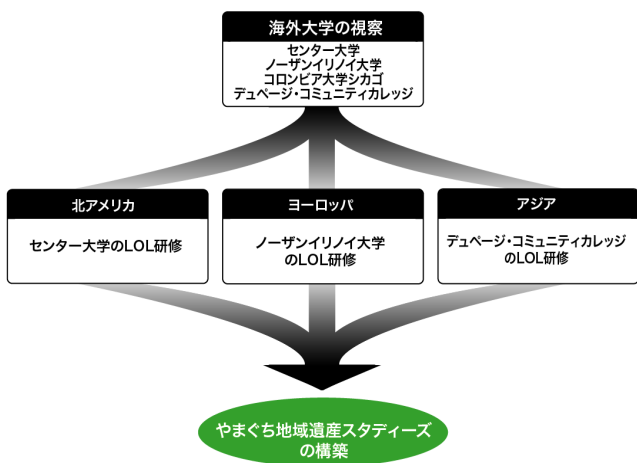
海外研修 2009年1月～3月

フォーラムFD 2009年3月

プログラム構築

海外先進教育視察(2008年9月)

平成20年9月、アメリカの3大学と、その内の一大学から推薦されたコミュニティカレッジを視察しました。



やまぐち地域遺産スタディーズの試行（2008年11月～2009年1月）

平成19年度から20年度にかけては「郷土文学遺産」と「クラフト&デザイン遺産」の2科目の試行を行いました。残り2科目は平成21年度以降の試行となります。

郷土文学遺産



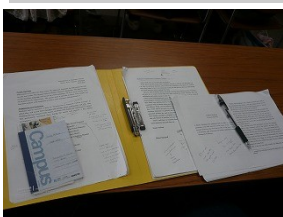
事前学習



外部講師
による授業



LOL

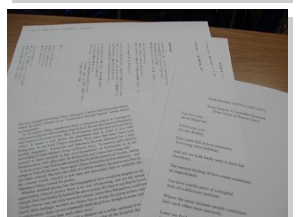


事後学習



英語で発信！
プレゼン
テーション

クラフト&デザイン遺産



海外研修(2009年1月～3月)

2009年1月から3月にかけて3つのプログラムに参加し、科目デザインやシラバス作成、授業の運営や指導方法、課題や自主学習の出し方、学生の評価等について研修を行いました。この成果を、「やまぐち地域遺産スタディーズ」の構築に生かします。具体的には、学生に自主的に学ぶ態度を身につけさせる次のような点が参考となりました。

- ・教室での事前・事後学習を約3割程度、現地学習を約7割程度とするようなバランスを考慮すること。
- ・事前に読むべき課題図書や資料等を配布し、下調べをしたノートを準備させること。
- ・講義では自主学習ノートをもとに質問や発表をさせる能動的な学習態度を求めること。
- ・グループ学習を通して現地での体験的な学習へのモチベーションを高めていくこと。
- ・訪問する機関や施設、団体、場所等について、グループ別に分かれて調べたことをプレゼンテーションさせて知識を共有し、現地訪問や現地調査、現地学習に関する技術面に関するガイダンスを徹底すること。
- ・LOL期間中は毎日ジャーナルを必ず記録させ、データを集積させること。
- ・レポートの作成基準を明確にすること。
- ・事後学習で学んだことを自分の言葉で表現させ、発信させること。
- ・評価項目や評価基準、評価シート(自己評価、ピア・グループ評価、教員による評価等)を事前配布すること。